

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科（外国語活動を含む）

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業改善をしていくために、令和6年度の校内研究の主題「児童が主体的に学びに向かうための望ましい支援の在り方～児童の実態に応じた、効果的な学習指導を通して～」を継続し、発展させてよりよい授業をめざす。
- ② 八王子市学力定着度調査をはじめとする各種調査等の結果から多くの児童つまづきが見られた問題、学校としての指導上の課題を踏まえ、各教科の指導方法の改善に取り組む。
- ③ 児童の発達段階や教科の特性を踏まえ、各学年の教科等指導において、1人1台の学習用端末を活用し、ICT活用の特性を活かした個別最適な学び及び協働的な学びの一体的な実現に向けて学期に1回以上の教員研修を開催するとともに、授業実践を公開する。
- ④ 体育科の授業改善を中心に、鉄棒（9月）・持久走（12月）・縄跳び（1月）の取組を推進し、休み時間等も外で遊ぶ習慣を学校全体で取り組み、体力の向上への意欲を高める。
- ⑤ 学習活動全般を通し学校図書館の活用を充実させ、児童に「読む・調べる」の習慣を身に付けるようにすることで、言語能力の向上を図り、自分の言葉で表現する力を育成する。
- ⑥ 高学年は中学校教育への円滑な接続や多面的・多角的な児童理解の促進のため、専門性の高い教科「社会科」と「理科」等について教科担任制を実施する。

イ 総合的な学習の時間

- ① 地域の教育資源や学校農園を活かすとともに、SDGsを意識した体験的な学習を通して、「環境」「地域理解」「伝統・文化」「福祉」「キャリア」についての学習を充実させ、自ら課題を見付け、よりよく解決していく資質・能力を育成する。
- ② 保護者や地域の人材が参画した「地域から学ぶ」身近な郷土学習として（第4学年『川口の学習』、第6学年『華道体験』など）を通し、本物に触れる喜びや地域社会とのかかわりを学び、地域への誇りと愛情を深め、地域や社会の一員としての自己の生き方を子どもたち自らが考えられるようにする。

ウ 特別活動

- ① よりよい人間関係の形成、集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に向け、学級活動・クラブ活動・児童会活動において、それぞれの役割を果たし、協働し課題を解決することを通して、集団の一員としての自覚を高め、所属意識、自己有用感を高めるようにする。
- ② 児童による自主的・実践的な活動を特に重点として促し、集団宿泊の行事ではより充実したものにするために、事前学習から児童自身が集団生活の在り方や充実について考えられるように指導し、主体的で実践的な態度を養う。

(2) 特別の教科 道徳を要とする道徳教育

- ① 自他を尊重し、協働して物事の解決に向かう態度を育てるために、考え、議論する中で児童が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える授業を実践し、学級においても支持的風土のある安心して力を発揮できる場にする。
- ② 学校重点目標「思いやりのある子の育成」をめざし、「親切、思いやり」「生命の尊さ」を重点内容項目とし、道徳教育全体計画及び別葉に基づいて指導し児童の道徳性を養う。
- ③ 「八王子市いのちの大切さを共に考える日」及び「道徳授業地区公開講座」を設ける。講演会、協議会等を実施し、家庭・地域・学校が連携した教育を推進していく。

(3) キャリア教育

- ① 地域の教育資源をゲストティーチャーに招く等、キャリア教育全体計画に基づいた指導を各学年で計画的に実施する。全学年「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用し、児童が「人の役に立つ喜び」を知り、社会人・職業人となるために必要な能力を培う。
- ② 檜原中学校グループが一体となり、合同で行う活動や、青少年対策地区委員会への活動について、年に3回行われる「小中一貫教育の日」において、互いの学校における児童・生徒の効果的な活動を共有し、9年間を通した活用をさらに行う。